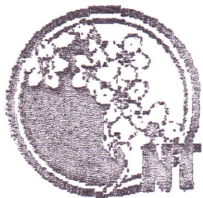


川崎・多摩丘陵の里山を守る会

熊野森トラスト

2004年春夏号
事務局 伊中
In&Fax 044-866-7005



ターザンの木は残った



雨上がりのひんやりとした空気の中で、黒々とした幹、枝を張ったその蔭に入ると、自然の懐に抱かれた安心を感じます。大きな樹の力は、そこに在ることの偉大さそのものです。

「ターザンの木」は、末長富士見台にあるスダジイの大木で、この斜面緑地のシンボルツリーであるばかりでなく、この名の示すとおり、森の楽しみを表すものでもあります。

樹齢は、およそ六十年から百年、幹周りは約六メートル、根元から四本に分かれていて、枝は地面を這うように横へ横へと伸び、その形状から、ロープを張って遊びたくなるようだから、「ターザンの木」と呼び習わされています。高さはおよそ十メートル。ただし、まだ正確に測って見たことはありません。

この木は、地元の中老年層にとつては幼い頃遊んだ思い出の木ではあったものの、けつして世に広く知られたものではありませんでした。竹やぶと雑草に埋もれて、末長熊野森

には、シラカシの林も、貴重種のキンラン、ギンランの植生もあり、トリもタヌキも、豊かに自然を謳歌していたのです。

今から六年前、末長にマンション建設のための開発計画が持ち上がり、熊野森とか、久本山と呼ばれていた緑地の三分の二が七棟のマンション建設のためにつぶされるというこのとで、「江戸見桜」とともに、竹林から出現したその樹形は、異彩を放っていました。このマンション建設が始まった一九九九年にはその敷地外にあり、伐採の難を逃れました。

二千三年マンションができ、昔日の面影は無いものの、かろうじて残った多摩丘陵の突端部の奥まった一角。「ターザンの木」はそのわずかの「森」の入り口に守護神のように立っています。川崎市の「町の木」に推薦されましたが、建設会社がこの土地を所有している同意が得られず、指定されませんでした。

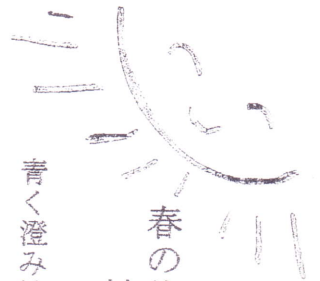
ということは早晩、環境アセスメントを受けたこの建設地の隣接地が、二次開発の対象になると考えられました。

この斜面緑地を保全するために、シンボルツリーの「ターザンの木」の保全を訴えて二年がかりの署名運動を始めました。

二千三年十一月三十日「黒坂黒太郎コカリナコンサート」は、「ターザンの木」保全運動の広がりとして新聞各誌に取り上げられました。その大きな反響の中で知ったのは、関東の環境局緑政課に行き、この斜面緑地の買取りの要望も出しました。結論から言えば、市の条例は開発から斜面緑地を守るものにはな

らなかつた。二千四年七月に工事着工です。「ターザンの木」保全のための請願署名は、千五百人あまりの皆様のご協力により、この七月に環境委員会にて討議されることになっています。

今のところ、建設地の提供公園になる予定で、この木は伐採されません。枝を刈られて、形は変わっても、残り続けるはずですが、それはこれまでの保全活動の成果ですが、寂しくなりません。(伊中悦子)



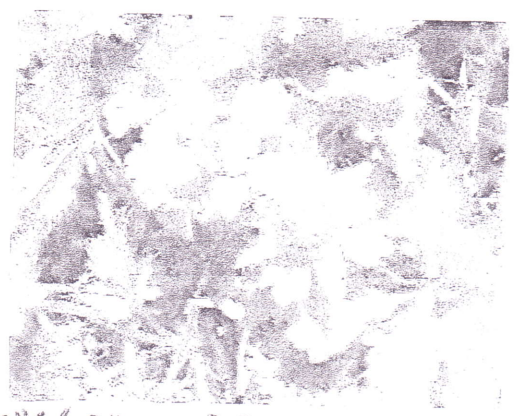
春の熊野森 植物観察会

青く澄み渡った空が気持ち良い
4月25日、好評だった昨年秋季
に続き、今回は春の草木につい
て、元川崎自然観察指導員の高
橋先生を再び呼びお呼びして、観
察会を開催しました。

昨年より参加者も増え、賑や
かな中、集合場所の末長久保台
公園では、都市型公園の植栽を
中心に説明を受けました。大き
くなったカナメモチは、白い花
房を日差しの方にみごとに付け
ていました。家の垣根に見かけ
るこの木に花が咲くのは、今ま
で気付かず驚きでした。花をあ
まり見かけないのは、花芽が付
く前に刈り込んでしまうからだ
そうです。クスノキは、葉と同
化する様な緑黄色の小さな花を
付け、青々とした葉は、樟脳を
取る木だけあって、良い香りが
しました。

皆の歓声と感動の音が上がったのは、ケヤキの木の上に、小さな鳥の巣が見つかった時でした。メジロの巣だろうと言う事でした。

公園を出て、ターザンの木の方へ、市道久本20号線を少し歩くと左手の斜面は、今年もクズが茂り始めていました。椋は葛粉、生薬にもなりますが、今頃のつるの先は天ぷらにして食べられると聞き、皆興味津々見入りました。



ヘビイチゴ (バラ科)



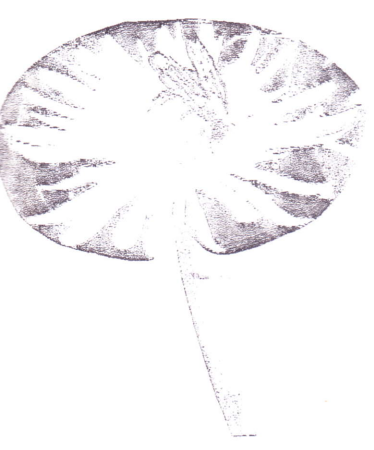
カタバミ (カタバミ科)

錦装が切れた駐車場の脇道に入ると、そこは野苺の宝庫でした。春の七草で知られるハコベと、長く似た白い花のヤエムグラをループで比較し、そしてハコベが、花は上向きに咲かせるけれど、種をつくるときは、下向きを変え葉陰に隠す知恵を聞きました。青い花をつけるオオイヌノフグリやワスレナグサに似たキヌウリグサ。ヘビイチゴ、そして随分大粒のがあると思っていたら、それはヤブヘビイチゴで、共に幼い頃からの思い出と違い、食べられるという事でした。ただ、おいしくはないそうです。

スズメノテツポウやムラサキケマンでは、草遊びも教わり、皆童心にかえって一時楽しみました。

タンポポが群生している所では、日本タンポポだと分かり、先生からすばらしいの音が上がりました。見分け方は、花の下にある総苞の状態を判断し、開いていないのが、在来種で、外に反っているのが外来種(西洋タンポポ)や雑種と教わりました。特に雑種の繁殖が著しく、今や日本タンポポは、都市部では殆ど見られなくなっているのだそうです。

タンポポと混在して、スギナも群生していました。地下茎でツクシとつながっているこのスギナは、驚くことに3億年前か





ら姿を変えていないと言われているのだそうです。

新設道路と当たる竹垣の脇の古木が、工事さらされていたにもかかわらずなんと萌芽し、つぼみをつけていました。めずらしいハコネウツギと教わりました。

そして、ターザンの木（正式名はスダジイ）まで行き着きました。大木の下に佇むと気持がとても落ち着きます。そして自然の力が成したすばらしい形状は何度見ても感動します。

終着地の末長熊野森緑地へと足を進め、マンション横の階段を下りると、左手斜面にはクロバーの花、シロツメグサが咲いていました。子供の頃、花を編んで、腕輪や首飾りを作ったものです。また、薄紫色の清楚な花を咲かせていたジュウニヒトエや、葉草にもなり別名ジゴクノカマノフタとも言う濃い紫色の花、キランソウも生えてい

ました。共に幸い人に触れない場所で、見事に育っていました。

階段を上がり緑地には、葉先が白く花のように見えるシロダモ、先の葉とくきが赤いアカメガシワの木、フジの野生種ノダフジ、触ると葉を閉じるネムノキ、奥の階段脇には、若木のエゴノキも二本ありました。良い香りのする白い花が、いつか咲くのが楽しみです。

予定時間かなり過ぎ、観察会は一先ず終了し、おいしいお団子とお茶を戴きました。

変化する環境の中で、たくましく生きる草花の生命力や、美しさに触れ、心豊かになった喜びに浸りつつ、その後解散となりました。

高橋先生にも感謝です。

高橋先生 (タカハシ)



『春の植物観察会』

参加して

「公園の中には何種類かあるの植物があるのよ」と思っています。高橋先生の最初の質問。それにハッとしたのは、普賢周田の植物をまごのて「木」とか「草」としか言っていないからかも。でも、植物を愛するのよ」とは、ほんとう

の種類の植物がそれぞれに春を謳歌していることがわかり、新鮮な驚きを感じます。末長久保台公園から熊野緑地までのコースは、距離にして数百メートル。普賢周田という間に過ぎました。小道ですが、観察会では発見の連続です。スズメノテッポウは吹く優しい草の音のする葉。蔓を伸ばした葛は芽を揚げています。西洋タンポポと日本タンポポという国際交流。シロツメ草には歴史の物語。さうには不思議がいっぱいのミクロの世界、子どもたちを夢中にさせるおもちゃ、そして心を和ませてくれる可憐な花々など、熊野の森の植物たちはほんのりとしたその表情をもっていたなごころです。身近な自然の存在に気づくこと、そこを知ること、自らも愛するも深まり、いかにすればこれからの自然を守るかができるかを改めて考えさせられます。春のホカホカ陽気の中、最後に食べたお団子は格別で、花も団子も満足いっは、春の日を満喫(満喫)とがこころでした。

メインレポート 岡田佳壽



活動記録

- ◆ 三月二十一日(日)里山活動、熊野森緑地の樹木などに名札をつける。
- ◆ 三月二十五日(木)川崎市公園緑地課大谷さんに関口マンション建設地の説明を現地にて受ける。
- ◆ 四月六日(火)川崎市緑政課高田さんから関口マンション建設による自然的環境配慮についての説明を受ける。
- ◆ 四月八日(木)川崎市教育委員会文化財課による岡家跡地についての説明を現地にて受ける。
- ◆ 四月二十五日(日)『春の里山を歩こう』植物観察会
- ◆ 五月十八日(土)里山活動
- ◆ 五月二十一日(金)川崎市議会環境委員会によるターザンの木視察
- ◆ 五月二十三日(日)熊野森植生調査
- ◆ 五月二十八日(金)川崎市議会環境委員会議員への説明活動。岡家跡地の植物、石造物、庭の調査。
- ◆ 「かわさき環境デー2004」
六月十三日(日) 子ども夢パークで開催のイベントに参加。ターザンの木のパネル展示、岡家跡地の保全のための請願署名運動を行う。

これからの活動予定

秋のイベント決定

椿座による

「コトバマンダラ」

今秋の十月十日(日)午後、ターザンの木の下で椿座による言葉語り「コトバマンダラ」を行います。

場所には物語があり、その場所の物語にふさわしい言葉があり、その語られるべき言葉を詩や歌、散文など文学を用いて表現します。

言葉語りがあるターザンの木や周辺の木々と、どんな調和した空間を作り出すのか楽しみです。どなたでも参加でき、ティータイムがある気軽な催しになるよう準備する予定です。

詳しいことは追ってお知らせいたします。

岡家跡地

の取り組み

岡家跡地の黒塀、四脚門、石碑、日本庭園を保全し、市民が憩う公園にする請願署名

武蔵溝ノ口駅南口から久本山斜面緑地が続き、徒歩四分の馬坂下には樹木が茂り四脚門が目をはひく岡家跡地があります。

この場所は、高津区を案内するシルバーガイドにとっても、周辺の庚申塔、寺院、横穴墓などが点在する緑と歴史の重要な拠点です。

浜田庄司記念館建設予定地として土地開発公社所有ですが、川崎市の財政難から記念館建設中止が決定され、現在はマンションのモデルルームに貸し出されています。

里山の会では時折、剪定や草刈りを行い、二〇〇一年には署名運動を展開して記念館建設の請願を提出しのですが、新たな動きを生み出すことはできませんでした。

老朽化が心配され、塀などの修繕も必要になってきたので、二〇〇四年四月、管轄の教育委員会文化財課方と共に、庭園や門の状態を点検し、正式な愛護会が発足できるようにお願いしました。

しかし、許可がすぐ出るような状況ではないようなので、門等の保全と公園にする署名活動を行うことになりました。

みなさまのご協力をお願いします。

ご連絡下されば署名用紙をお渡しいたします。

○ 六月二十日、七月十八日(日)

里山活動(毎月第3日曜日)
末長久保台公園に午前十時集合
草刈、クリン作戦、
ぜひご参加ください。

第5回

川崎・多摩丘陵の里山を守る会
総会

七月三日(土)午後六時三十分

てくのかわさき第4研修室

今後の活動方針を決定する大切な総会ですので、皆様の参加をお願いします。なお、総会后、懇親会を予定しています。飲んで語りましょう。

募集
年会費(8月から翌7月まで)2000円の振込みを郵便局でお願いします。
口座番号 00270-1-53171
加入者名 多摩丘陵の里山を守る会

基金のお願い(積みたてます)
一口3000円以上、高校生以下1000円です。
口座番号 00280-2-53172
加入者名 久本山・熊野森ナショナルトラスト

事務局連絡先 伊中悦子
TEL&FAX 044-866-7005